

令和2年度 福祉サービス第三者評価結果

〈基本情報〉

対象事業所名	千丸台保育園
経営主体(法人等)	社会福祉法人長幼会
対象サービス	認可保育園
設立年月日	平成17年4月1日
定員(利用人数)	100名
事業所住所等	横浜市保土ヶ谷区新井町356-3 / 電話番号 045-381-2898
職員数	常勤職員27名 ・ 非常勤職員20名
評価実施年月日	令和3年1月7日・1月8日
第三者評価受審回数	2回
実施評価機関	株式会社 R-CORPORATION

〈実施方法〉

評価項目	標準となる評価基準
自己評価実施	期間：令和2年10月12日～令和2年11月30日 複数のチームを設置し、それぞれの担当する評価項目を割り振って自己評価を行う。その結果を持ち寄って乳幼児主任・主任・園長で話し合いをし、最終的に1つの保育園の自己評価としてまとめる方法。
利用者調査	期間：令和2年11月20日～令和2年12月4日 利用者アンケートを実施

〈理念〉

社会福祉法人長幼会は、子どもの人権や主体性を尊重し、保護者と一体となり心身ともに健康な児童を育てる事を目標としています。さらに児童の最善の幸福のために、利用者及び地域と協力し、児童福祉を積極的に推進するとともに、地域の子育てに力を尽くします。そのため職員は豊かな愛情をもって児童に接し、児童の最善の利益を尊重するための知識の習得と技術の向上に努めます。また子育て支援のために、常に社会性と良識に磨きをかけ、総合に啓発し合うことを継続していきます。

〈基本方針〉

1. 法人の保育理念である「高齢者や地域の方の人的資源」を活用し、次代を担う子どもたちとその家族を支えるより良い保育環境(保育園)を構築する。
2. 子どもの最善の利益を守り、安心・安全な保育(園・環境)を目指す。
3. 子どもたちの健やかな育ちを支援し、地域の子育て支援の拠点として役割を果たす。
4. 高齢者や地域の方々とのふれあいを通じた心豊かな保育を目指す。

<保育目標>

「思いやりのあるたくましい子の育成」

ふれあい交流や子ども間の年齢の枠を越えた交流、野菜・花作り等自然とのふれあい体験、遊びや季節行事などを通して、人間形成の基礎となる思いやりの気持ちや心身ともにたくましい子どもの育成を保育目標とします。

<千丸台保育園の特徴的な取り組み>

- 法人全体で職員一人ひとりが職位階層(キャリア)別に求める資質を経験により求められる姿を確認し、それぞれが目標を設定し、年度途中の面接により、すでに目標を達成できている職員は更なる追加目標を設定していくことにより常に向上心を持って向き合っていくことで資質の向上につながるよう努めています。
- 本園は千丸台団地の入り口付近にあり、四季を通じて桜やイチョウの木々が美しく豊かな自然に見晴らしのよい広い園庭にオレンジ色の園舎です。緑区・旭区と近く、足を伸ばすと公園がたくさんあり散歩に出かけています。また園庭の遊具を新しく設置し、ローラー滑り台や丸太渡りを楽しんでいます。子育て支援としては交流保育や園庭開放・一時保育を行い、地域に根差した保育園を目指しています。

<<総合評価>>

【千丸台保育園の概要】

- 千丸台保育園の園舎は増築・修繕され、平屋建てのオレンジ色の外装が印象的な園舎に生まれ変わりました。南側には見晴らしの良い広い園庭があり、園庭には従来の砂場、鉄棒の他に新しく遊具が設置され、子どもたちが伸び伸びと体を動かして遊べる多くの固定遊具が揃っています。園の所在地は保土ヶ谷区ですが緑区、旭区も程近く、足を伸ばすと豊かな公園が点在しています。子どもたちは毎日、園庭で元気よく遊び回り、散歩では四季折々の自然に触れながら戸外活動を積極的に行っています。
- 千丸台保育園では、保育と教育に力を入れ、また、「自然にふれて」というテーマを掲げて活動を推進しています。体操教室、習字、リズム遊び、菜園活動、おはなし会、地域交流、世代間交流等、豊富にカリキュラムに取り入れ、子どもたちの可能性を広げています。体操教室は3歳~5歳児を対象に月2回、外部の専門講師を招喚し、指導を受けています。菜園活動は、園の畑と新井小学校の畑を借用して、クラスごとにそれぞれの畑で土に触れ、種まき・苗の植え付けから収穫体験を行い、食育につなげています。小動物の飼育では、幼児クラスでカブト虫、亀の飼育をして命の大切さを学ぶ機会となっています。千丸台保育園では自然豊かな郊外保育園の恵まれた環境の下、環境を生かした活動により感性豊かな子どもを育てています。

《特に評価の高い点》

1. 【地域に根ざした保育】

●千丸台保育園は地域に根ざした保育園として、子育てに関する情報や場所の提供を行い、地域の子育て親子に必要な支援を行っています。地域支援では、「地域に開かれた保育園作り」と「育児支援」をテーマにして力を入れています。「開かれた保育園作り」として、園の情報開示を行い、園見学の受け入れや近隣の郵便局に園の行事・子育て情報を掲示し、地域に発信しています。近隣施設との交流では、白山高校との交流・ボランティアの受け入れ、新井小学校との1年生・5年生との交流、さらに、社会福祉協議会を通じて高校生のボランティアを受け入れ、保土ヶ谷区北西部エリアの保育園との交流（がやっこ）や公立白根保育園との交流、近隣中学校4校からの体験学習の受け入れを行っています。世代間交流では、上菅田地域ケアプラザ（デイサービス）を訪問し、交流しています。地域の育児支援では、育児相談、育児講座、交流保育、園庭開放・プール開放、赤ちゃん教室・「行ってみよう保育園」・一時保育を提供し、地域の子育て親子に寄与しています。新井小学校との交流では、お茶摘み体験をしています。お茶摘み、荒糶、焙煎の体験から、「見る」「聞く」「感じる」「触る」「嗅ぐ」の五感を通して自然に触れ、様々な大人と関り、自ら感じ取っていく貴重な体験を提供しています。身近な伝統作業を体験することで自然の本質等に触れ、人と人との関わり合いから社会性、豊かな感性を培っています。

2. 【自然とのふれあいと食育】

●千丸台保育園の園児は毎日のように、外遊び（園外活動）をしています。例えば、9月の1ヶ月間の3歳児の主活動における外遊びは、登園日数19日のうち14日と記録されています。主活動以外の時間にも外遊びを行っており、子どもたちは毎日元気良く体を動かしています。テーマ「自然にふれて」では、散歩で触れ合う自然、小動物の飼育、草花栽培活動を行っています。子どもたちは、様々な公園に行く中で、豊かな自然に触れ・親しみ、散歩で行き交う地域の方々と挨拶を交わします。また、小動物の飼育を通して、命の尊さを知り、生き物の生態や特徴に興味・関心を持つことで、探求心を培っています。さらに、草花の世話を通して四季の変化に気づき、感性を育みます。テーマ「菜園活動」では、園の畑等で土に触れ、胡麻、トマト、じゃがいも、サツマイモ、きのこ、玉ねぎ、ニンジン等を栽培して、成長を観察し、収穫を体験しています。子どもたちは、種まき、苗植え、水やりから野菜の花の形を知り、興味を持って観察や、図鑑で調べ、成長を喜び合い、収穫した野菜を食しています。また、保育の1つの柱として食育を位置づけ、年度初めから季節に応じて食材や、食べ物の栄養の働きを知り、クッキングを行っています。給食日よりでは、11月号に体を温める食事として風邪予防のメニューを紹介しました。また、咀嚼の大切さにより肥満予防、集中力・記憶力アップ、虫歯予防、食べ物の消化・吸収アップの記事を掲載して保護者へ啓蒙する等、家庭と一緒に子どもの健康管理に努めています。千丸台保育園の保育キャッチフレーズは、「思いやりのあるたくましい子どもの保育」です。豊かな自然とふれあい、地域の方々と共に活動し、ここで培われた逞しい力は希望を乗せて、小学校から将来への「人間力」としてつなぎます。

《改善を求められる点》

1. 【研修を通じた保育の質の向上について】

●保育の資の向上に向けた取り組みでは、保育所指導計画の振り返りと、保育士自身の振り返りの両面で取り組んでいます。一方、保育の質の向上は「保育士本人の動機付けにあり」との声も聞かれます。園では、保育士の資質向上を目的に年間研修計画を作成し、一人ひとりに合った研修を推奨し、園全体で育成を行っています。千丸台保育園では、他園との保育研修を行っており、その研修報告書を閲覧しました。支援が必要な子どもが在籍するクラスでの研修です。概略的には、保育士の話し方・言葉がけ一つで子どもの行動に変化が見られ、保育士の対応により皆が笑顔になり、自分自身も心から楽しんでいた等、と実直な言葉で綴られており、さらに、「千丸台保育園では行っていない英語教室への参加、河川氾濫避難訓練への参加等を生かして、これからの自分の保育の中に生かしていきたい」とまとめています。報告書の内容から研修によって保育士の動機付けが行われ、資質向上へのステップアップを確認できます。このような事例をさらに増やすためにも、視野を広げ、新たな発見や保育士自身の成長につながるような研修に定期的に参加できる体制を作り、豊富で多様な研修計画の立案とその計画実行の積み上げを期待いたします。